



氷室神社の本殿—奈良市で



氷室神社 (奈良市)



古代以来、皆が豊かになれるようにという理想

を掲げた私たちの国柄始まりの奈良では、稲作を中心とした農耕を大切に豊作を祈る氷室神社が、奈良市と天理市に鎮座しています。厳寒の氷の厚さが、その年の豊作不作を占う重要な目安となっていました。

全国から「氷業繁栄」祈願

奈良市の氷室神社は、しとして天皇に献上し、や花水をお供えして、業平城遷都に伴い、710 そのお下がり配りを配り、豊作を祈願するのが献水の（和銅3）年に春日野の池（製氷施設）や御蓋本来的な意味です。奈良時代に編纂された「日本書紀」には、仁徳天皇62山麓に鎮座し、平安時代の初めごろに現在地に移されたと伝えられています。

豊かな氷は、豊作の証者、鯛・鯉の大型水柱の官人によって維持されてきました。
 当社は、平安中期以降明治の初めまで、宮廷の雅楽・舞楽を担う近衛府の会会員（八尾鈴子）

- （住所）奈良市春日野町1の4
- （祭神）大鷦鷯命、鬮鷄稻置大山主命、額田大仲彦命
- （交通）JR奈良駅・近鉄奈良駅から市内循環バス「氷室神社」
- （拝観）境内自由
- （駐車場）あり。有料
- （電話）0742-23-7297
- ・国立博物館前「下車すぐ」